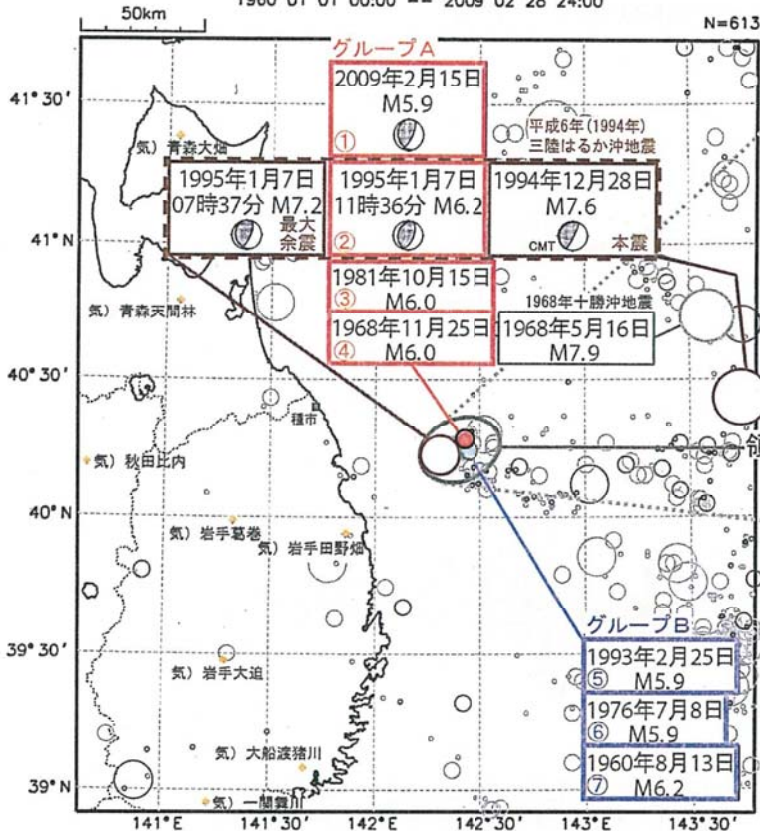


岩手県沖（種市沖）の固有地震的地震活動

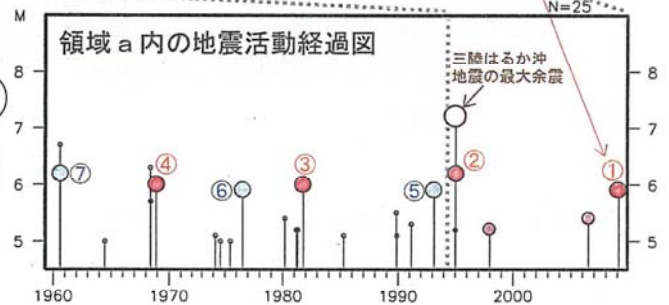
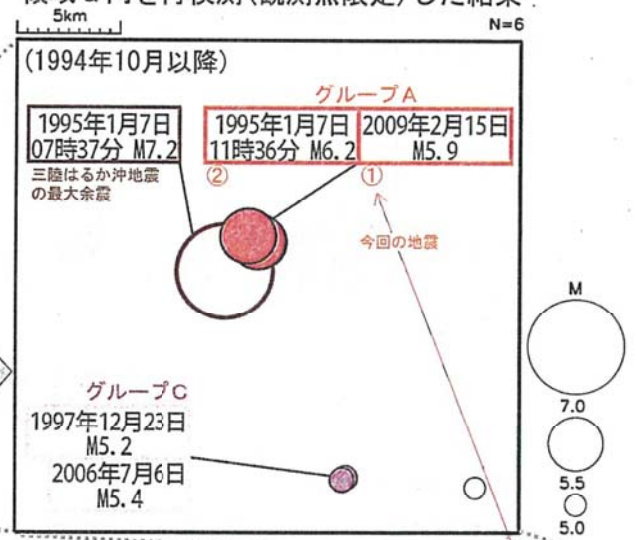
三陸はるか沖地震の最大余震の震源近傍に、M6の2グループの繰り返し地震

震央分布図（1960年以降、深さ0~100km、M \geq 5.0）

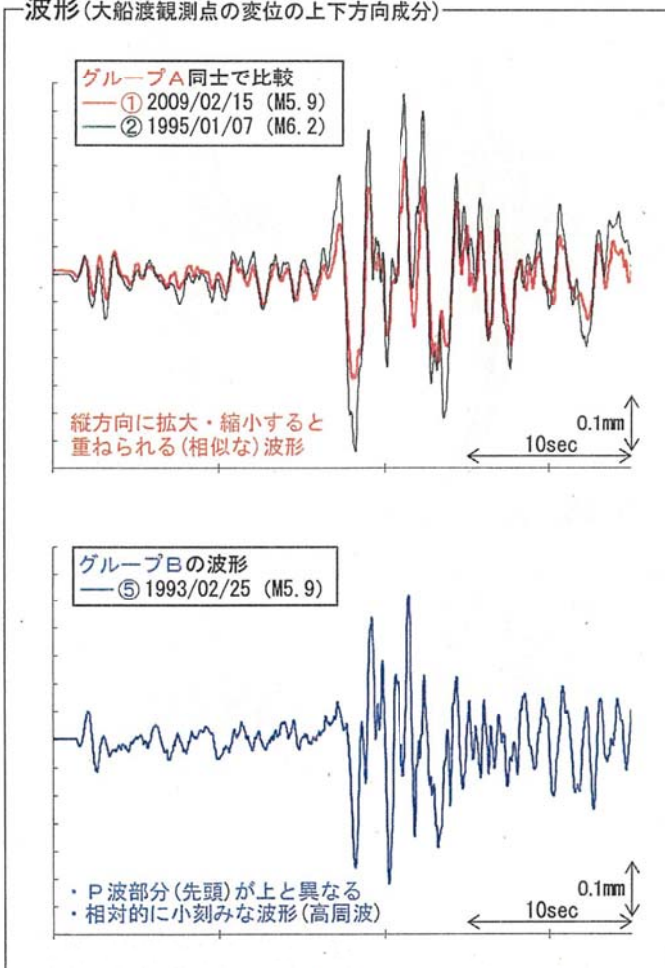
1994年10月以降の地震を濃く表示
1960 01 01 00:00 -- 2009 02 28 24:00



領域 a 内を再検測（観測点限定）した結果



波形（大船渡観測点の変位の上下方向成分）



岩手県沖（種市沖）のプレート境界で①2009年2月15日にM5.9（最大震度4）の地震が発生した。この地震の震源とほぼ同じところで、②1995年1月7日（M6.2）、③1981年10月15日（M6.0）、④1968年11月25日（M6.0）にも同規模（M6.0程度）の地震が発生しており、これらの地震は、発生間隔（約14年）がほぼ一定で波形もよく似ている（左図）。プレート境界上に存在する同じアスペリティの破壊により繰り返し地震が発生していると考えられる。

近傍では、「平成6年（1994年）三陸はるか沖地震」（M7.6）の最大余震（1995年1月7日、M7.2、②はこの地震の余震）が発生しているほか、別の繰り返し地震が⑤1993年2月25日（M5.9；最大震度3）、⑥1976年7月8日（M5.9）、⑦1960年8月13日（M6.2）に発生している（グループB：これらもグループ内で地震波形がよく似ている）にもかかわらず、今回の地震（M5.9）は発生間隔を大きく乱されることなく発生しているように見える。

なお、グループB（M6.0程度、発生間隔約16年）の繰り返し地震については、前回（⑤1993年2月）の発生からすでに16年経過したところである。